

人間発達の観点からみた高速道路と沿道施設の役割と今後のあり方に関する一考察

大阪大学工学部 正員 新田保次
大阪大学工学部 学生員 ○近藤政弘
大阪大学工学部 学生員 灰谷篤雄

1. 研究の背景と目的

従来の高速道路整備は地域の経済的發展を目指すことに主眼がおかれ、地域の人たちの成長・向上に貢献したかという観点（人間発達の観点）でのとらえ方は弱い。人間発達を促す観点から高速道路整備を考えると、高速道路を人と人を結びつける文化交流の装置と考え、沿道の文化・教育・レジャー施設などの整備と一体的に計画する視点が重要となってくると思われる。そこで本研究では、中国自動車道路の整備とあわせて、沿道に文化・教育・レジャー等の機能を持つ施設を先行的に整備した兵庫県や沿道自治体などによる「緑の回廊」施設をケーススタディとして選び、沿道住民の評価から今後の高速道路整備と沿道での施設整備について知見を得ることを目的とした。

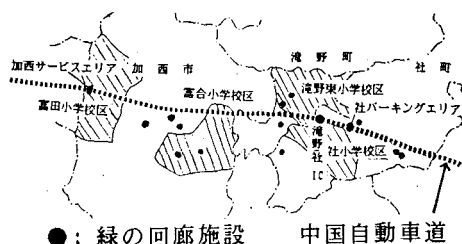


図1. 調査対象地域（調査票を配布した小学校区）

2. 沿道住民の意識調査

人間発達型の沿道施設が整備された中国道沿道地域の中で、東播磨内陸地域の加西市、滝野町、社町を選び、この3市町から中国道、沿道施設へのアクセスが異なる4つの小学校区をとりあげた（調査地域を図1に示す）。小学校でアンケート配布を行い、児童を通じて保護者に回答してもらった結果、有効回収数は1698票、有効回収率は80.0%となった。調査対象とした主な「緑の回廊」施設を表1に示すが、おおまかに知名（認知）度、利用度とも広域なレジャー施設（広域利用型）、知名度は高いが利用度にやや地域性がある文化・教育施設（広域認知型）、

知名度・利用度ともに狭域な施設（狭域利用型）に分けられる。

表1. 調査対象地区の「緑の回廊」施設

狭域 名 度	利用度	
	狭域	広域
狭域	<狭域利用型施設> ・加西勤労者体育センター ・加西市健康増進センター ・社モーターボート会館 ・滝野歴史民俗資料館 ・山陽自然歩道	
広域	<広域認知型施設> ・兵庫教育大学 ・滝野台生涯教育センター	<広域利用型施設> ・いこいの村はりま ・フラワーセンター ・滝野中央公園

3. 沿道住民による高速道路に対する評価の分析

中国道の総合的な評価について、<地域の発展><くらしの向上>それぞれにとって役立っているかどうかたずねた。

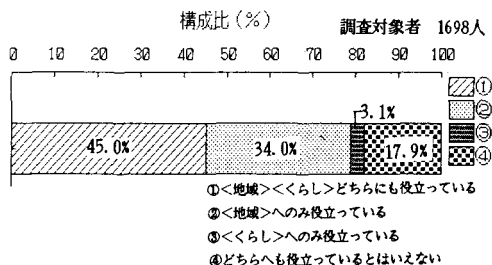


図2. 中国自動車道の評価（地域、くらしにとって役立っているかどうか）

図2に示すように地域にとって役立っていると評価している住民（①・②）は8割近くいるが、自分のくらしに対して役立っているとする住民（①・③）は5割弱と、地域に対する評価と比べると低い。このくらしに対する中国道の評価要因分析として、生活の利便性、地区分断・交通公害などの環境、また文化面での中国道による変化16項目を説明変数としてとりあげ、数量化Ⅱ類分析を行った。その結果、表2（ここでは偏相関係数0.1以上のもの）に示すように、大都市へ出ることによる文化接触、大都市との文化交流の増加の変化が、この評価に大きく寄与していることがわかった。

表2. 数値化Ⅱ類による くらしに対する中国道の評価
要因分析

相関比: 0.485 サンプル数: 236

要因	カテゴリ	スコア	偏差グラフ	偏相関 (レンジ)
中国道による変化				
大都市へ行くこと による文化接触	増えた	-0.016		0.262 (0.055)
	変化なし	0.039		
地域と大都市との 文化交流	活発になった	-0.015		0.124 (0.026)
	変化なし	0.011		
買物の便利さ	便利になった	-0.012		0.118 (0.023)
	変化なし	0.011		
観光客による まちの良さの変化	失われた	-0.020		0.102 (0.025)
	変化なし	-0.005		
	良くなった	0.004		
地域が発展した	発展した	-0.005		0.100 (0.016)
	変化なし	0.011		

4. 沿道の人間発達型施設の利用と評価

<くらし>に対する中国道の評価が異なる住民で、沿道の「緑の回廊」施設の利用に差があるかどうかをみたのが図3である。広域利用型のレクリエーション施設では利用経験の割合は変わらないものの他の施設では差がみられ、特に広域認知型教育・文化施設でその差は大きい。次に沿道の人間発達型施設としての位置づけを図4に示すように、2つの軸の評価点で表した。縦軸は施設の子供の成長・自分自身の向上への貢献度で、これは施設の機能本来での人間発達度を表わすと考え。横軸の交流度は、施設を通じて行なわれる家族・地元・他地域との交流3つをまとめたもので、高速道路沿道にあることを活用した人間発達を促す度合として考え取り上げた。各施設とも利用経験のある人についての評価得点を示しているが、2つの施設(宿泊施設としてのイメージが強い)を除いて、成長・向上への貢献度はおおむねどの施設でも高く評価されている。ところが交流度をみると、播磨中央公園、フラワーセンターといった広域レクリエーション施設では、やはり高速道路利用の訪問客を呼び込んでいるため交流度は高く表れるものの、他のわりと地元利用者が限定されているような文化・教育・健康型の施設ではその段階にまで交流は評価されていない。

5. まとめ

(1) 地方部における高速道路沿道地域では、自分のくらしに対する高速道路の貢献を、地域に対してのように高く評価していない。また、くらしに対する高速道路の評価の要因としては、高速道路がもたらす大都市との文化的なつながりの変化が大きく寄与する。

図3. 中国道評価別 「緑の回廊」施設利用経験の割合

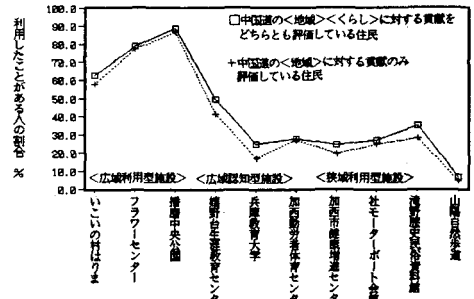
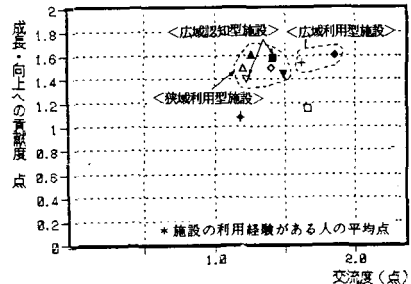


図4. 沿道における人間発達型施設としての評価点



＜広域利用型レクリエーション施設＞
□ いこいの村はりま
+ フラワーセンター
◆ 播磨中央公園
＜広域認知型教育・文化施設＞
▽ 兵庫教育大
■ 姫野台生涯教育センター
＜狭域利用型施設＞
◇ 加西市健康増進センター
△ 加西勤労者体育センター
▲ 社モーターボート会館
▲ 滝野歴史民俗資料館
▼ 山陽自然歩道

軸の説明

＜縦軸＞成長・向上への貢献度		施設の利用経験がある人の平均点	
施設の貢献	役立っている	役立っていない	
子供の成長へ	1点	0点	
自分自身の向上へ	1点	0点	
＜横軸＞交流度			
施設での交流	特にある	ある	
家族との交流	2点	1点	
地元の人との交流	1点	0点	
他地域との交流	0点	0点	

- (2) 高速道路沿道における人間発達型施設の中で文化・教育、健康・福祉型施設は、高速道路のくらしへの貢献を高く評価している層ほどよく利用している。
- (3) 広域利用型のレクリエーション施設での交流は高く評価されているが、それに比べると他の文化・教育型、健康・福祉型の施設での交流はそれほど評価されていない。今後はこれらの広域利用されていない施設にも、高速道路の持つ機能を活用した交流面での広域化を促すことが求められる。